

七月のテーマ

社員のおかげ



え・城谷俊也

化 粧品の販売会社を営むTさんは、もともと専業主婦で

したが、その会社の商品が好きで販売員になりました。

娘からの「お母さんはお化粧の先生なのね!」という一言で「人にも教えてあげよう」と心に火がつき、売り上げを伸ばしていきました。やがて販売店を開業して、社員を雇用するようになりました。知人のすすめで倫理法人会に入会後は、自社にも「活力朝礼」を取り入れました。

当時、Tさんと社員は友達のような関係で、仲が良い一方、馴れ合いの雰囲気もあったのです。経営者セミナーで、「馴れ合いでない優しさ・責め心のない厳しさ」という言葉を聞き、「自分にはこれが足りない」と痛感したことが、活力朝礼導入のきっかけでした。

その頃、県内で「活力朝礼コンテスト」を開催するという話を持ち上がり、Tさんの会社にも声がかかりました。一瞬、躊躇したものの、「馴れ合いでない優しさ・責め心のない厳しさ」を身につける

ためにも、この機会を活かそうと考えたTさん。お世話になっていたY講師から背中を押されたこともあり、出場を決めました。社員たちも賛成してくれ、「どうせ出るならグランプリをとろう!」と皆で目標を定めたのです。

目標が定まったことで、互いに改善点を指摘しながら取り組むことができ、妥協しないチームワークが生まれました。共に成長し合える職場に変わっていったのです。コンテストではグランプリを獲得し、以来10年間、レベルを落とすことなく、活力朝礼を続けています。業績も好調で、現在は二店舗目を開くまでになりました。

「これも活力朝礼を続けてきたお陰、社員の協力のお陰です。仕事も以前は何でも自分でやっていたですが、今では社員のほうが優秀で、第一線で活躍しています」と、Tさんは語ります。

その後、活力朝礼で会社が変わったことの恩返しをしたいという思いから、Tさんは、県の朝礼委員長役を引き受けました。共に

役を受けたY副委員長も、活力朝礼で変わったと語る一人です。

Yさんは、外国人労働者の派遣業を営んでいます。長く一人で仕事をしていたが、ある時「朝礼は一人でもできますよ」と勧められました。Yさんは「へいずれ社員を雇えるほどの仕事をしよう」と決意し、一人で朝礼を続けました。すると、仕事への価値観を同じくする人との出会いがあり、彼が社員になったのです。

それからというもの、Yさんは朝礼で社員の顔を見るたびに「いい加減な仕事はできない」という責任感が強くなったといいます。その後は社員も増え、「社員のお陰で自分は社長にさせてもらっている」と感謝しています。

二人に共通するのは、活力朝礼が社員との心をつなぐ大きな役割を果たし、一人、二人と社員が増えていったことでしょう。多くの委員と共に運営した本年の「活力朝礼コンテスト」は、800名もの観客を集めて、見事に成功を収めたのでした。